

## 2) 産科管理

前年度の研究から産科管理全般の向上には産科管理にあたる医師のみでなく助産婦等の教育の質的向上や職能を明確にする必要があると思われる。そこで本年度には産科管理における医師・助産婦等の役割について全国レベルでのアンケート調査を企画実施した。

### 1. アンケート内容

アンケートは産科管理における医師・助産婦等の役割に関する研究班が共同で実施し、調査施設の規模性格、診療従事者等の間は共通であり、また妊婦管理及び地域助産婦活動に関連する部分も含まれた。産科管理に関する内容は(1)分娩管理における医師助産婦の業務体制、(2)入院管理の医師・助産婦等の具体的業務分担、(3)分娩時の医師・助産婦等の役割分担、(4)産褥、新生児管理、(5)検討会および研究会への参加状況等であった。

### 2. アンケート送付先及び回収率

全国988カ所の産科を取り扱う施設(公的病院226、私的病院233、診療所529)にアンケートを送付した。施設の選択には日本母性保護医協会の協力を得て、同協会の定点モニター施設を利用した。アンケートの回収は614施設で回収率は62.1%であった。なお解答施設における平成元年度分娩数の合計は約24万件で当該年度の全国分娩数の約20%に相当するものである。

### 3. 成績および考察

#### 1) 調査施設の分娩数、産科医師および助産婦数とその年代別構成等

調査した614施設の分娩件数を表1に示す。分娩数400前後が最も多いが、100未満が79(12.9%)、1000以上が23(3.8%)と小規模大規模の各施設をも対象としている。

産科医師および助産婦数はそれぞれ1434(1施

設平均2.34)人、2615(同4.26)人であり(表2、図1、2参照)、年代では医師は40代が最も多く30代がこれについだ。助産婦は20代が最も多く年代をおう毎に減少する傾向がみられた。また助産婦0の施設が18みられたが、これらは分娩0または100未満の施設にやや多く認められ逆に殆どの分娩を扱う施設には助産婦が勤務するということができる。

#### 2) 分娩管理における医師助産婦の業務

夜間等の時間外に分娩を担当する医師は解答の得られたものの内約半数は自宅待機であり(図3)、分娩時の産婦管理に直接あたるのは助産婦といえることができる。ただし分娩時に必ずしも助産婦が勤務していない施設も相当数(168施設27.4%)あった。

分娩時の医師助産婦等の業務分担を検討する(表3)。分娩のための入院時の判断および入院時の診察は主として医師がおこなう(それぞれ71.5%、70.4%)が一部では助産婦等がおこなっていた。

分娩監視装置は調査施設では大多数が全例に装着使用しているが、その装着は助産婦または看護婦がおこなうことが多い。心拍数陣痛図の評価は助産婦が判断する施設も相当数あった。その場合診断レベルは比較的高度な心拍数パターンの判定までできるものが多数を占めた。心拍数陣痛図の判定を助産婦の業務の範囲内とすれば、助産婦教育や再教育の場における教育内容の検討を計らなければならないと考える。

分娩時業務として酸素投与血管確保等は助産婦がその判断で実施することもある。会陰保護等の介助は主として助産婦が行い、会陰切開その縫合は医師が行うところが多く、業務分担がなされていると考えられる。新生児の仮死蘇生術等は殆ど医師が実施するが、一般新生児の口腔内吸引等は助産婦に任せる施設が多くここでも業務分担がなされている。産褥の回診は医師助産婦が協力して

おこなう施設が多く、退院後の生活指導等は助産婦が中心的役割を果たしていた。

### 3) 助産婦の研修

産科の症例検討会は実施している施設が多く、医師の参加を得て行うところが多数みられ、看護レベルの向上を図っていることがうかがえた。助産婦による勉強会を実施しているところが過半数をしめ、年平均4回以上と多いことも関心の高さを示すと考えられる。院外の研修への参加も図4に示すように殆どの施設で認められ、平均1.8回を数えた。助産婦による学会発表も活発で136施

設において実施されていた。

### 4) まとめ

本アンケート調査により産科管理における助産婦等の果たす役割の実態、問題点が明らかになりつつある。これにより分娩管理における助産婦の役割の将来像や産科管理における医師助産婦の役割分担等の問題に具体的解答が得られる予定である。その成果に基づき助産婦教育あるいは再教育に大幅な改善を加えれば、産科管理ひいては母子保健の向上に寄与することが期待される。

表 1. 調査施設の分娩数（平成元年）

年間分娩数	頻度	割合(%)
1. 0	[ 18]	[ 2.9]
2. 1～ 99	[ 79]	[12.9]
3. 100～ 199	[ 99]	[16.1]
4. 200～ 399	[160]	[26.1]
5. 400～ 999	[184]	[30.0]
6. 1000～1999	[ 22]	[ 3.6]
7. 2000～	[ 1]	[ 0.2]
8. 無回答	[ 51]	[ 8.3]
	614	100

表 2. 産科医師および助産婦の施設別人数

産科医師合計人数

1. 1人	[236]	[38.4]
2. 2人	[102]	[16.6]
3. 3人	[ 78]	[12.7]
4. 4人	[ 41]	[ 6.7]
5. 5人	[ 37]	[ 6.0]
6. 6人以上	[ 36]	[ 5.9]
7. 無回答	[ 84]	[13.7]
	614	

助産婦合計人数

1. 0	[ 18]	[ 2.9]
2. 1～4	[231]	[37.6]
3. 5～9	[ 63]	[10.3]
4. 10～	[101]	[16.4]
5. 無回答	[201]	[32.7]
	614	

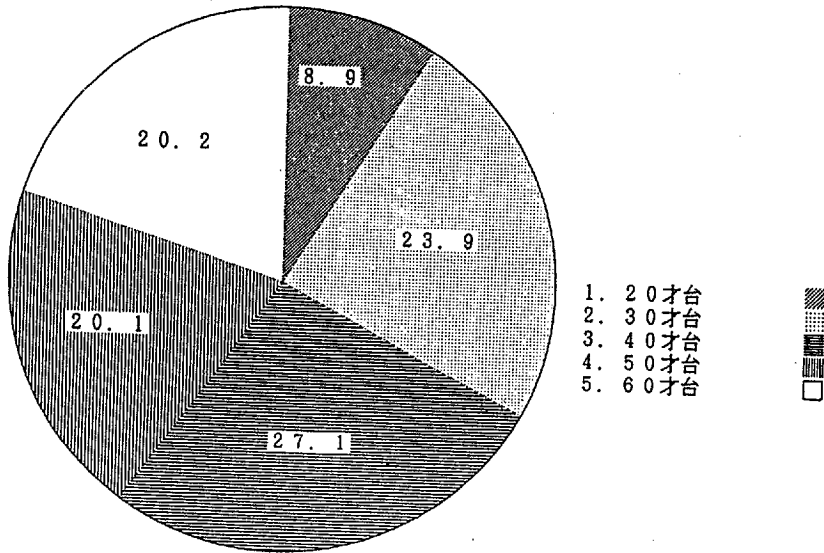


図1 年代別産科医師合計

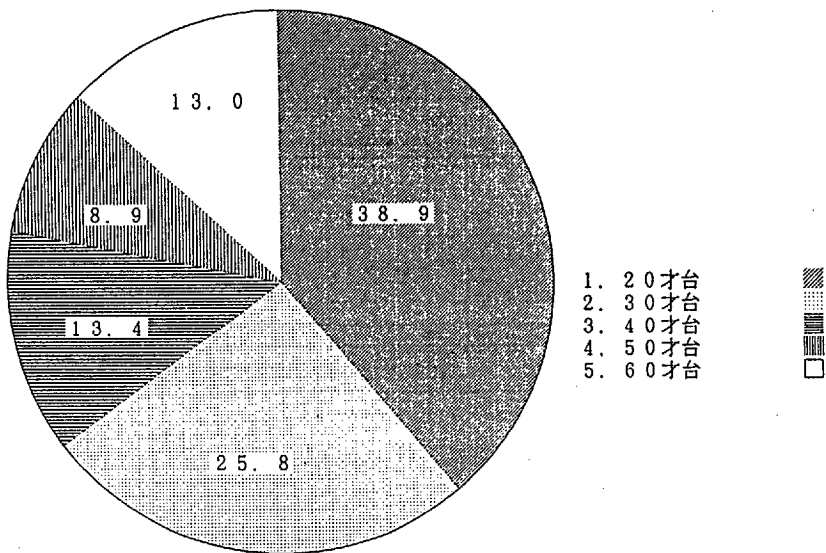


図2 年代別助産婦合計

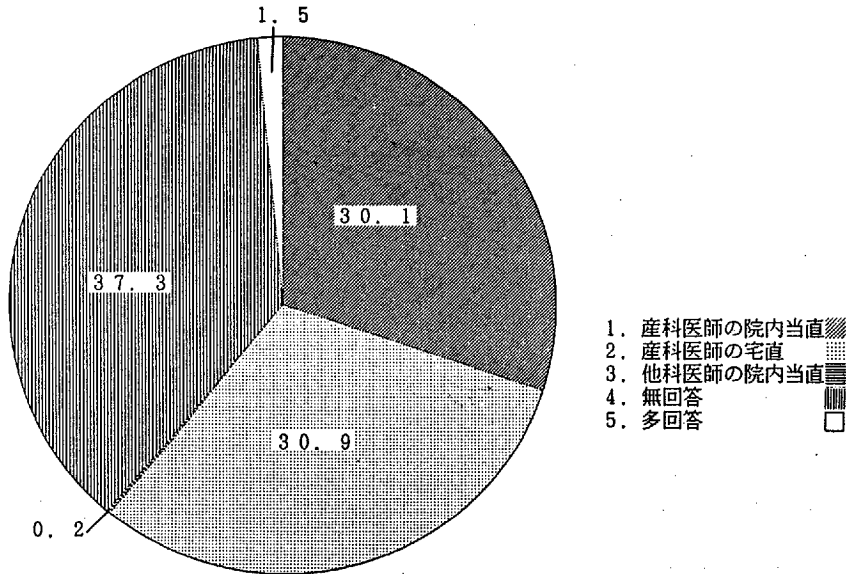


図3 時間外分娩を担当する医師の当直体制

表3 分娩時の医師助産婦等の業務分担

主な担当者	医師	助産婦等	無解答等
分娩時入院の判断	71、5	17、1	11、1
入院時の診察	70、4	17、5	12、1
分娩監視装置装着	8、5	50、5	41、0
心拍数陣痛図の評価	50、0	39、9	10、1
酸素投与血管確保	43、3	47、7	9、0
会陰保護等の介助	36、6	55、7	7、7
会陰切開	75、7	18、9	7、3
会陰切開縫合	88、6	4、2	7、2
新生児仮死蘇生術	76、2	16、3	7、5
新生児口腔内吸引	47、4	45、3	7、3
産褥の回診	35、1	56、8	8、1
退院後生活指導	21、5	67、8	10、7

\*、緊急時に助産婦が行うことがある'を含む

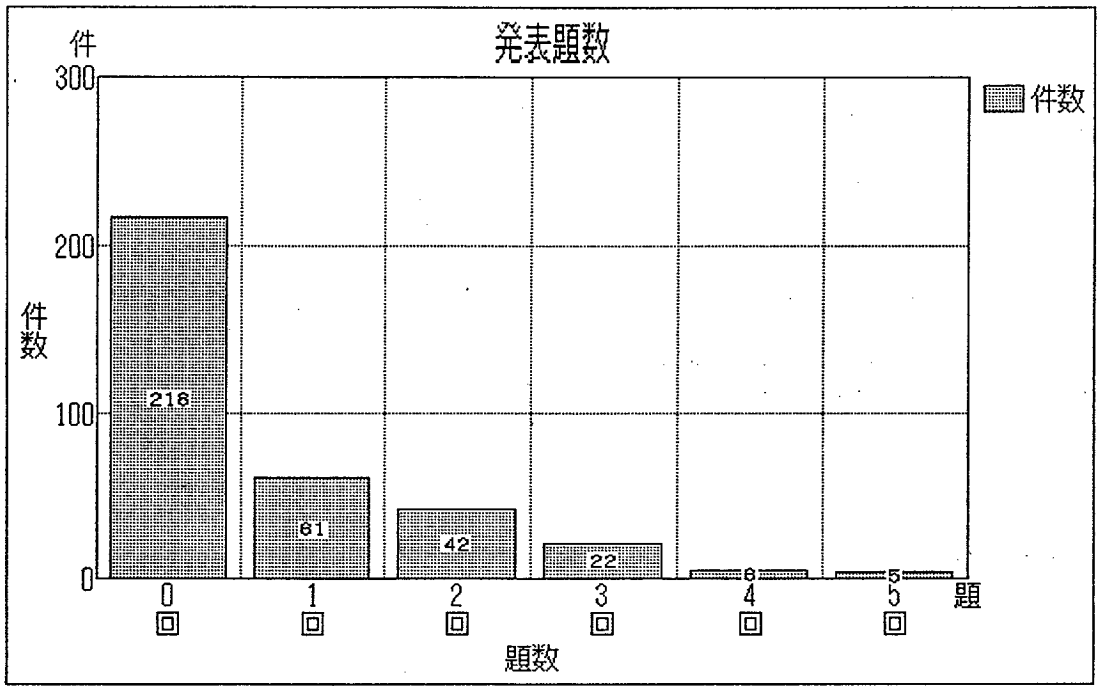
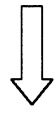


図4 助産婦による学会発表



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



#### 4)まとめ

本アンケート調査により産科管理における助産婦等の果たす役割の実態,問題点が明らかになりつつある。これにより分娩管理における助産婦の役割の将来像や産科管理における医師助産婦の役割分担等の問題に具体的解答が得られる予定である。その成果に基づき助産婦教育あるいは再教育に大幅な改善を加えれば,産科管理ひいては母子保健の向上に寄与することが期待される。